

協議会ニュース 115号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2007. 11



オオタカ

冬の林で出会うことの多いオオタカ。

その精悍な顔つきは野鳥ファンならずとも虜になってしまう。

イラスト・文…名古屋支部 渡辺敦

ようこそ！ 愛知県自然観察指導員連絡協議会へ

案内：歓迎会&交流会

.....P2

案内：研修会

.....p3

昆虫研修

大谷敏和.....P4

ふるさと親子自然観察会

奥田海岸周辺の干潟の生き物観察

永田孝.....P5

きのご観察会

深見弘.....P6

支部だより 親子ふれあい自然塾

滝田久憲.....P7

研修旅行報告

山田博一.....P8

会員のページ

南アフリカにワイルドフラワーを訪ねて

石川登志子.....P9

観察会あれこれ 自然のしくみ・その6

奥居達朗.....p10

事務局だより

.....P11

行事案内・編集部だより

.....p12

ようこそ！

来る11月8～11日、自然観察指導員講習会（愛知県主催）で、新たな自然観察指導員が誕生します。愛知県自然観察指導員連絡協議会としても多数の新指導員を迎えることになります。そこで12月24日午前には新指導員歓迎会、午後は研修会（p3参照）を開催します。尚、会場は交通の便のよい中京大学文化市民会館（旧 名古屋市民会館）です。新指導員との顔合わせの場、交流の場に是非参加ください。

歓迎会 & 交流会

日時：12月24日（月・祝）午前10時～12時（受付及び準備午前9時30分～）

場所：中京大学文化市民会館 第1会議室（旧名古屋市民会館）

（旧名古屋市民会館）名古屋市中区金山一丁目5番1号・TEL：052-331-2141

内容：新指導員歓迎会 & 交流会



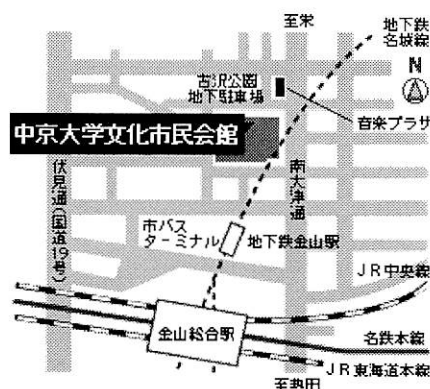
① 自己紹介

② 私の「観察道具」紹介

持物：①名札

②マイカップ

Here we go!



- ・地下鉄名城線「金山」下車地下連絡通路あり
- ・JR中央本線 東海道本線「金山」下車北へ徒歩5分
- ・名鉄本線「金山」下車北へ徒歩5分

◆午後の研修に参加の方へ◆

会議室にて持参の軽食を摂ることが可能です。

愛知県自然観察指導員連絡協議会へ

NACS-J 講師としてご活躍の今井信五氏をお招きし、下記の通り研修を実施します。
対象は新指導員ですが、観察会事例豊富な今井講師のお話は、前回加入の指導員にも
またベテラン指導員にもさらに新しい一歩を踏み出すために、必ずや役立つでしょう。
是非メンバーを誘って参加ください。

研 修 会

日時：12月24日（月・祝）午後1時15分～4時20分

（受付午後1時～）

場所：中京大学文化市民会館 第1会議室 （※右p2下のマップ参照）

◆第一部講演（午後1時20分～2時40分）

講師：今井信五さん（NACS-J 講師）

演題：私の「新しい一歩の踏み出し方」

内容：①自然観察のアイデアあれこれ

②「地球温暖化」をテーマに観察会を実施するならば・・・。

冬・春に実施する観察会では、どのような手法で「地球温暖化」を伝える
ことが可能でしょうか。その一例を学びましょう。

◆休憩（午後2時40分～3時）

◆第二部質疑応答 & 意見交換会（午後3時～4時）

～ゆったりお茶を楽しみながら 話し合ひましょう～

※ マイカップを持参ください。



◆後片付け・退去（午後4時～4時20分）

昆虫研修 一鳴く虫一

尾張支部 大谷敏和

日時 8月25日(土) 19時～22時

場所 海上駐車場付近

講師 水野利彦氏(愛知県環境審議会専門調査員、当会会員)

駐車場に着くといろいろな虫の声が聞こえてきます。水野指導員は、集合時間前から観察用の昆虫を捕獲されていました。よく似た鳴き方をする虫、大きな鳴き声に打ち消され小さな声で鳴く虫、種類が多すぎて一つひとつ聞き分けるには至難の業です。そこでCDで耳の準備体操をしてから歩き始めました。いろいろなところで耳にするツツレサセコオロギは、時間帯によって鳴き方が違うとのこと。秋の終わりまで鳴いているそうです。力強くリリリと鳴くハラオカメコオロギ、ジージーと鳴くマダラスズ、コロコロと鳴くエンマコオロギ、コオロギの種類と鳴き方の違いが多少聞き分けられるようになりました。

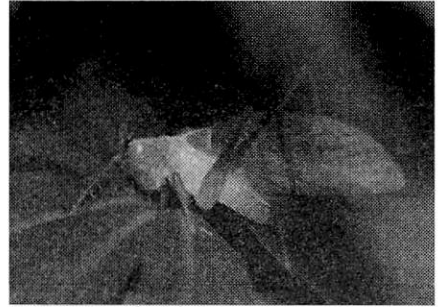
スィーチョンと鳴くハヤシノウマオイをみんなで見つけました。橋の付近でシュルルとクサヒバリ、聞き慣れたスズムシももう鳴いていました。カンタンが鳴いているところも見つけられました。

草にぶら下がって寝ているシオカラトンボを見つけました。昼では見られない夜の姿もおもしろいものです。

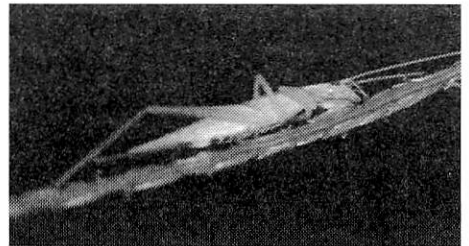
植物の種類、背丈の低い草原・背丈の高い草薮・林縁の草薮などの環境によって鳴く虫の種類が違ってくることもわかってきました。

確認できた鳴く虫：エンマコオロギ・ハラオカメコオロギ・ミツカドコオロギ・ツツレサセコオロギ・タンボコオロギ・マダラスズ・ヤチスズ・ヒゲシロスズ・クサヒバリ・キンヒバリ・クマスズムシ・マツムシ・スズムシ・ケラ・セスジツユムシ・サトクダマキモドキ・ハヤシノウマオイ・オナガササキリ・ササキリ

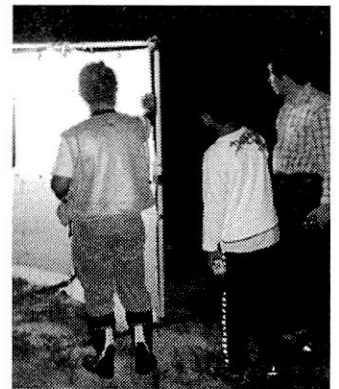
講師の水野指導員、参加のみなさん、夜遅くまでおつかれさまでした。



▲ハヤシノウマオイ



▲カンタン



▲灯火採集の様子

77'セミ・ヒゲラも飛んで来た！

ふるさと親子自然観察会

奥田海岸周辺の干潟の生き物観察

知多支部

永田 孝

日時：平成19年7月29日(日)

9:30~12:00

天気：曇り

場所：知多郡美浜町 奥田海岸

最近「おもちゃ王国」の誘致で営業が好転した「南知多ビーチランド」の裏手に広がる海岸が奥田海岸です。

今回はその奥田海岸と、脇を流れる山王川河口との両方の干潟で観察を行い、近い場所でも環境によって生息する生物が異なることを観察・体感することができました。

観察会当日は、明け方から少し雨がぱらつき、参加状況を心配しましたが、一般16名、会員6名（うち2名は名古屋支部）のみなさんが参加していただきました。

また、参加者の中には5家族9名の子どもたちも含まれ、十分に“親子”自然観察会になっていたと思います。

9:30に奥田農協の駐車場に集合。簡単な説明ののち、近くの公園に車で移動、そこから歩いて山王川河口樋門付近に到着。

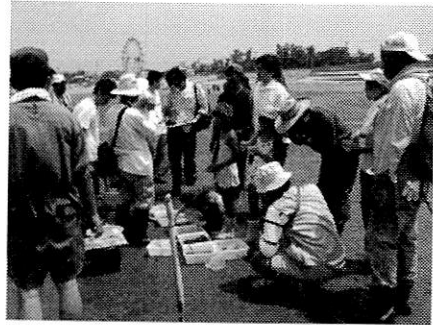
ここでまず堤防の上から、双眼鏡を使ってチゴガニたちを観察しました。参加した子どもたちの中には双眼鏡を初めて触る子もいたりして、最初は上手に使えなかったりもしましたが、親や大人たちの手助けで上手に使えるようになり、良い経験になったことと思います。

なお、このように双眼鏡で観察したのは、干潟でウェービング（一斉に同調してハサミを上げ下げする行動）をしている彼らを脅かさないためです。しばし彼らのユーモラスなダンスを観察してから干潟に降りて観察をしました。

この干潟では、チゴガニの他、コメツキガニ、ヤマトオサガニといった泥の中の有機物をこし取って食べているカニたちや、



チゴガニのダンス



ホソウミナ、ヘナタリ、フトヘナタリといった河口の干潟表面によく見られる貝や、ソトオリガイ、オキシジミのような干潟の泥の中によく見られる貝などを観察することができました。

河口付近の観察を終えてから、奥田海岸に移動しました。到着後最初に森田指導員から危険な生物の説明を受けてから、銘々がタモやバケツなどを持って、生物採集に熱中しました。

海岸は遠浅で、所々に潮だまりが出来ていましたが、その中には縦歩きもできるカニのマメコブシガニがたくさんいました。このカニをたくさん捕まえている家族もあれば、追い込み漁の如く協力して魚を捕まえることに闘志を燃やす家族、突堤脇で岩場の生物の観察に興味津々な家族など、それぞれが思い思いに1時間ほどの観察を楽しみました。

この海岸では、アサリ、アカエイ、アミメキンセンガニなどの砂地を住みかとするものや、突堤付近で採取された、イボニシ、イソガニ、タマキビ、ヒザラガイなどの岩場を住みかにするものも観察することができました。

観察会の最後は「わかちあい」を行いました。これは、それぞれが採集した生き物をバットに仕分けをし、全員でそれを観察することを指しますが、知多支部での川や海の観察会では、必ず最後のまとめとして行われています。

みなさんの頑張りで採集された、たくさんの生き物に対して、森田指導員が丁寧な解説を加え、それぞれの生き物に対する知識を深めることができました。

きのこ観察会

西三河支部

深見 弘

日時：10月13日(土)9:00～12:00

場所：王滝溪谷（豊田市）

テーマ：きのこの観察

参加者：一般18名、指導員12名（西三河支部10名、名古屋支部2名）

好天で気持ちいい観察会日和となりました。「親子自然観察会」と銘打ちながら、集まった30人は大人ばかり、PR不足なのか、それとも、子供はきのこに興味を示さないのか？最初の不安が的中しました。

観察会のスタートにあたり、「今日は観察会で、採集はしない」ことを確認しました。講師は当地では名講師で知られる当支部会員の三津井宏指導員、木村修司指導員です。観察の計画は溪谷沿いの道の両側でキノコを見つけながら上流に向かって、ゆっくりと歩きました。見つかるとその都度、講師の解説を受けました。食菌は意外に少なく、ウスヒラタケだけでした。他に奇妙な形のオオゴムタケは肉がゼラチン質で、コンニャクのような弾力があり、さっとゆでて黒蜜をかけた

りきな粉をまぶしてデザートで楽しむとよいとか。スタート地点から約1キロ上流の椿木（つばやぎ）園地を終点としました。そこで、おさらい用に採ってきたキノコをシートの上に並べ、復習をしました。楽しく充実した観察会でした。

観察できたキノコ

＜ハラタケ類＞

ヒラタケ、カラカサダケ、ニガクリタケなど15種

＜ヒダナシタケ類＞

ナギナタダケなど6種

＜腹菌類＞

ホコリタケなど5種

＜子のう菌類＞

オオゴムタケなど4種

＜冬虫夏草菌＞

コナサナギタケなど3種

合計33種



▲観察したキノコを再度じっくり確認する

親子ふれあい自然塾（その1）

名古屋支部 滝田久憲

名古屋支部（名古屋自然観察会）では、なごや環境大学の中で共育講座「親子ふれあい自然塾」を企画運営しており、開学以来今年で3年目となります。先日、今年度最後の講座が終わり、今年度の講座を振り返る時期に来ています。今回、協議会ニュースの編集の方から、この講座についての原稿依頼がありましたので、報告させていただきます。

なごや環境大学とは、「まちじゅうがキャンパス」をキャッチフレーズに、市民団体、企業、大学、行政などが協働で運営している環境学習のための大学で、2005年に開校されました。その目的は「環境都市なごや」そして「持続可能な社会」を支える人づくり、人の輪づくりで、行動する市民、協働する市民が共に育つことを目指しています。名古屋支部では、2003年から毎月第3水曜日の夜に環境学習会を開催しており、その学習成果を試す意味からも、環境大学に参加し、講座を開設しました。

どのような内容の講座にしようかと考えた時にすぐに浮かんだのが、なごや自然教室の環境学習版でした。このなごや自然教室では、2003年6月の海上の森を皮切りに、年5回、名古屋市やその周辺に在住の親子を対象に愛知県内外の海、山、川、湖などを訪ね、自然観察や様々な自然体験活動を行っています。そこで、新しく開設する講座名を「親子ふれあい自然塾」とし、親と子が身近な自然に触れ、お互いの絆を深めながら環境の事を考え、日常の生活の中で環境にやさしい行動が協力してできるようになることを目的としました。

なごや環境大学では市民や市民団体などが協働し、共に育つことを目的としていることから、できるだけ多くの団体と交流しながら講座を企画運営することを勧めています。この講座でも関係する諸団体と交流を図りながら、団体の代表者などに講師をお願いすることにしました。

プログラムの構成としては、環境学習のプログラムデザインでよく使われている起承転結型としました。すなわち、“起”の部分では「自然に親しむ」ためのアクティビティを、“承”の部分では「自然を知る」ためのアクティビティを、“転”の部分では「自然を調べる」ためのアクティビティを実施することとしました。そして、各ステップをじっくり行うために年度毎に次のステップに進むことにしました。

当初、この大学が単年度だけなのかしばらく続くのかが不透明でしたから、“転”のステップまで進められるかどうか分かりませんでした。そこで、1年目の“親子ふれあい自然塾”では「自然に親しむ」ことを目的に、市内の定例観察会3会場を使って、自然観察の他に草花遊びやザリガニ釣り、竹を切つての水鉄砲作り、田植え作業などを行いました。2年目の「自然を知る」では、近年、市民の手によって里山の保全がなされている猪高緑地に会場を固定し、田んぼやため池などの自然観察や調査を行いました。この際、ため池編については、ため池の自然研究会会員の方々のお世話になりました。

この結果、生物多様性の宝庫と言われる里山の自然では“水”が大切な役目を果たしていることが分かりました。3年目の今年は、「自然を調べる」ために、市内を流れる5つの川の水源地の森や湿地を訪ねることとしました。（以下、次号にて報告）



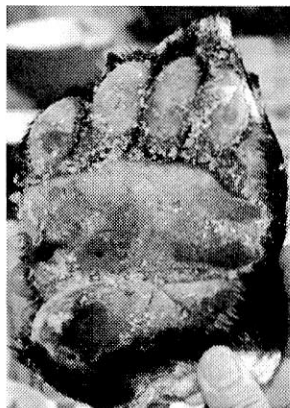
研修旅行報告 ～南信州へ～

尾張支部 山田博一

8月25日(土)～8月26日(日)に尾張支部で南信州研修旅行を行いました。

まず、ヘブンス園原で標高 1600 メートルの涼を得た後、村上和彦指導員(奥三河支部所属)がペアレントをされているユースホテル下条ランド(〒399-2101 長野県下伊那郡下條村睦沢 7852-98)にむかいました。ここは村上農園の奥にあり、窓からの展望も良い、体験型ユースホテルです。周辺を散策すると、農園の木に大量のカナブン・チョウそしてなんと巨大なミヤマクワガタがいました。

夕方、奥三河支部の皆さんと合流しました。懐かしい人たちと蓬莱泉などの地酒で交流しているうちに、村上農園の恵みをふんだんに使った夕食が始まりました。エダマメがこんなに甘いとは知りませんでした。次にトマト、スーパーのトマトとは全く違います。ミョウガ、ナス、甘い甘いトウモロコシ等、次々に野菜が出てきました。取れたての野菜は絶品です。昼夜の温度差がこのような美味しい野菜を作るのを知りました。初めて、シカの肉を食べさせてもらいました。自然観察指導員が、自分の農園の恵みで食事を作ってもてなしてくれる・・・この自然観察に感動しました。また、久しぶりに美味しい酒をたくさん飲みました。



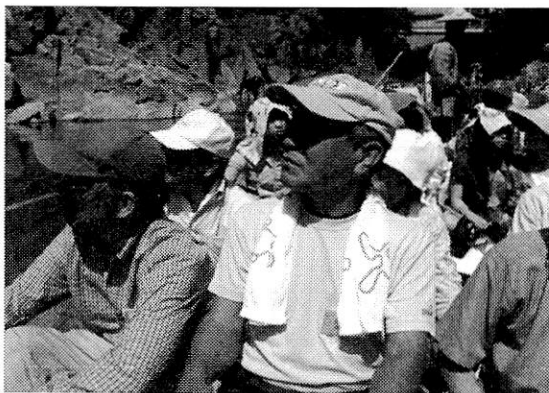
▲クマの手

次の日の朝は、5時起床で、極楽峠と三六観音巡りに行きました。観音さんの間に大きな石碑が建っています。

昔、土地争いがあったそれを和解した時、建てられたものです。これを見ると、昔の南信濃の生活の厳しさが忍ばれます。朝の運動の後の朝食では、クマの手を見せてもらいました。クマの手は、蜂蜜・花などを扱い子グマがその手のひらを口に含んでいるので、良いスープのだしになるそうです。都会に住んでいると現地の実情を知らなくて、ただクマがかわいそうだと思っていたのですが、自然の中で狩りと共に生活をしている一端に触れました。

朝食後は、奥三河の人たちと天竜下りをしました。天竜下りと言えば、水しぶきを浴びながら涼しい天竜川を下るイメージがあったのですが、現実は大変暑い川下りでした。お昼は奥三河の人たちと本場のそばを食べて別れました。

村上和彦指導員、ありがとうございました。武馬指導員、2日間の運転、御苦労さまでした。



▲天竜下りを楽しむメンバー

南アフリカにワイルドフラワーを訪ねて

ナマクワランドと喜望峰フローラ地区(2004 年世界遺産に登録)

南アフリカでの自然観察を天野保幸さん(東三河支部)が本年3月にメーリングリストその他で呼びかけ。そのツアーに複数の会員が参加し、そのひとり石川登志子さんからレポートを受取りました。

名古屋支部 石川 登志子

8月21日～29日アフリカ大陸最南端の、南アフリカのワイルドフラワーを訪ねてきた。

中部空港を夕方出発、香港で乗換え日付の替り頃再び機内へ。ヨハネスブルクまでの13時間の長い飛行時間の末、窓から外の景色が見えたのは、乾いた赤土の色のアフリカ大陸で、山脈の頂上には所々雪が見えた。季節は早春。

ヨハネスブルクは2010年にワールドカップの決勝戦の開催予定地で、空港周辺では大規模な建設工事が行われていた。さらに国内線に乗り換え約2時間後にはケープタウンに到着。すぐに目の前に山の頂上を取り除いた様な形のテーブルマウンテンが目に見え込んできた。アフリカの大地を踏みしめた感動もつかの間、空港を後にして最初の観察地、カーステンボッシュ植物園へ。(テーブルマウンテンの南斜面にあり、南アフリカ最大の原産地植物の保存園)ここではヤマモガシ科のプロテア属(90種のうち82が南アフリカにある。最近日本では切花でこの仲間が売られている)ツツジ科のエリカ属(600種のうち大部分が南アフリカにある。この仲間は、冬場の庭先にパンジーなどと混植されることが多い。イギリスではヒースと呼ぶ)等、色々な花を見た。翌日からはラムズコップ自然保護区、ナマクワランド自然保護区、ファンリースドープ自然保護区、ケープオブグッドホープ自然保護区を訪れた。移動する道路沿いにも花が咲き乱れる。もちろん人が手を入れたものではない。砂漠がこの季節雨の恵みを受け花園になる。3週間ほどの見渡す限りの花園。よく見れば、色々な花があり、どの花



▲ナマクワランドデージーが咲き乱れる

が多いかで花園の色合いが少しづつ異なる。あまりの花の多さと、種々の花があり、写真を撮るのも大変だった。

動物では、ウシ科でコルクの栓抜きのような角を持つエランド、チャクマヒヒ(子供を背中に乗せた群れ)、ボンテボック、ケープヤマシマウマ(シマウマの中では最も小型)、ケープハイラックス。鳥類では、ウロコカワラバト、ワライバト、アフリカジュズカケバト、イエスズメ、ケープハタオリ(ツリ巣を作り集団で繁殖する)、ケープカツオドリ(ケープ半島のランバーツ・ベイの8000余りのペア)、クロアシアフリカペンギン(通称ジャッカスペンギン)、アフリカクロトキ、ホロホロチョウやダチョウの群れ、サンバード(太陽鳥)の仲間。花園の中を歩く陸カメ。花園の中の沢山のアリ塚。遠くだがケープ半島を回遊する鯨の群れ。赤と黒の色合いのアフリカニシヨクバツタ。そしてアフリカでしか作られないルイボスティ、その工場と茶畑(マメ科の針葉樹)も見学。盛りだくさんのものを見ることができた旅だった。

自然のしくみ・その6

西三河支部

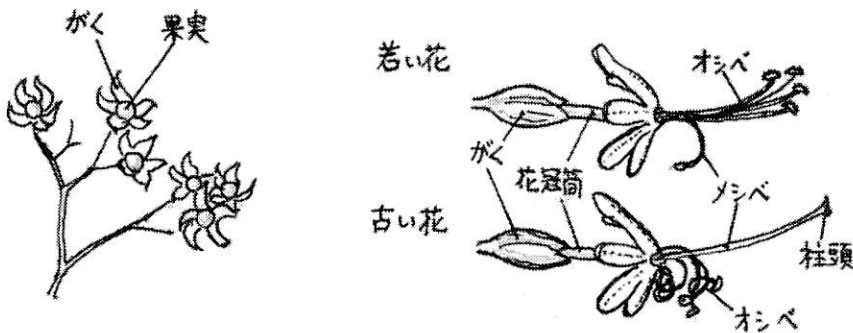
奥居達朗

このごろ(10月中旬)真っ赤に熟れたクサギの実が目立つようになりました。クサギは、観察会でその生き残りの仕組みについてよく話題にする木ですから、今回はクサギについて、主にその萼の役割について取り上げます。

実が真っ赤に熟れたと書いたのは誤りで果実は、藍色。赤いのは萼で、その赤と果実の藍色とのコントラストは美しく目立ち、美味しい実ができたよと鳥たちに呼びかけ、種子散布をさせようと誘っています。萼の最後の役割は、真っ赤になって星形に開き、客引きをすることでした。果実が未熟のうちは、袋掛けされたリンゴやモモのように果実を萼が包んで大事に保護しています。これが萼の二つ目の役割です。その時の萼は、ピンクがかった淡緑色をしています。

萼の最初の役割は、もちろん花の蕾を乾燥や外敵から守ること。開花すると花冠は長い筒状で先が5裂し平開します。蜜は、長い筒の奥の根元の部分にあるので、この花の蜜を吸えるのは長い口を持ったチョウやガの仲間だけ。ガがお得意さんの為でしょう、花は夕方に開花し、その花冠の裂片は白く、また甘い香りを発し夜間訪れるガにもその存在がよく分かるようです。萼の第四の役割は、開花後に花冠の基部の筒状の部分を包んで、その部分にある蜜が受粉を手伝ってくれないハチなどの蜜泥棒に横取りされないように守ることです。その為でしょうクサギの萼は、分厚くがっしりとしたものです。クサギは、ガに合せて花を進化させたものと考えます。

この花には受粉方法にも仕掛けがあります。雌雄異熟の花で、咲き始めは雄性期で、ホバリングしながら蜜を吸うガやアゲハの胸や腹に花粉が付着するように熟れた雄しべをぴんと前方へ突き出しています。このとき雌しべは、まだ未熟で垂れ下がりガには触れないようになっています。花が古くなると雌性期となりくたびれた雄しべは巻いて下がり、今度は熟した雌しべをぴんと前方へ突き出しています。そして柱頭が2裂し、体に花粉を着けて吸蜜に来るガを受粉するべく待ち構えています。自家受粉を避けるための仕組みであることは言うまでもありません。



私の観察会では、毎回何か二つ三つ「自然の仕組み」を皆さんと一緒に観察するように努めています。この1年間書かせていただいた『観察会あれこれ』は、それらの一部でした。「神は、細部に宿る」と言われた方がいらっしゃいますが、このシリーズでは生きものの細部にスポットをあて、様々な生き残りの仕組み・仕掛けについて、私のつたない観察経験を書きました。文才乏しく読みづらい文章しか書けなかったことをお許しください。

この1年間お付き合いいただき、ありがとうございました。

お知らせ

■ 会員情報について

- 会員から住所等変更の連絡がありましたのでお知らせします。

中田 顕世さん
〒463-0090
名古屋市守山区瀬古東 2-521

坂井田 良男さん
〒468-0023
名古屋市天白区御前場町 197

■ 連絡先などの変更は早めに

転居・婚姻などによる住所・氏名などの変更は、速やかに事務局までご連絡ください。現在利用のメール便は、移転先への転送が不可能です。くれぐれも注意ください。

■ 理事会開催案内

本年第 2 回目の理事会は下記の通り開催されますので、理事の方は万障繰り合わせてご出席ください。

日時：12 月 1 日 pm1:30～

場所：中京大学文化市民会館 第 2 会議室
(旧 名古屋市民会館)

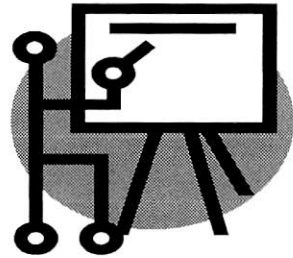
内容：総会議案内定
(次年度事業)

■ 新_指導員歓迎会 & 研修会 ＝12 月 24 日 (月・祝)＝

来る 12/24 (月・休)、見出しの通り午前は新指導員歓迎会を、午後は研修会を予定しています。午後は今井信五さんを講師としてお迎えします。(詳細は p2～3 を参照ください)

会場は交通の便のよい金山の中京大学文化市民会館(旧 名古屋市民会館)です。

是非ご参加ください。



■ 新 指導員のみなさんへ

ML [自然観察] に登録を！

愛知県自然観察指導員連絡協議会では、会員の齋竹善行さんがメーリングリスト[自然観察] を立ち上げ、みなさんの情報交換の場を提供していただいています。

生物暦を中心に、自然についてのさまざまな情報提供・話題提供がされています。まだ登録をされていない会員、また新たに加入の新指導員のみなさんも、是非齋竹さんの下記アドレスに連絡ください。

BZA03620@nifty.ne.jp

尚、この ML は協議会の活性化を目的に、齋竹さんが自主的に管理・運営されているものです。マナーを守ってご参加ください。

行事予定

■カシノナガキクイムシ被害の研修&報告会

日時 平成 19 年 12 月 2 日（日）午後 2 時（受付は 1 時 30 分より）

場所 なごやボランティア・NPOセンター研修室

内容 会員その他によるカシノナガキクイムシに関する情報交換と被害調査の報告

問合せ先 滝田久憲（名古屋支部） 電話 052-782-2663

■新入会員歓迎・交流会 & 研修会

日時 平成 19 年 12 月 24 日（月・祝）

場所 中京大学文化市民会館（旧 名古屋市民会館）

この行事の詳細は、本号の p2、p3 をご覧ください。

<編集部からのお知らせ・おことわり・おねがい>

- ◎ 協議会ニュースは会員のみなさんに、協議会・支部の行事や会員の活動状況をお知らせする媒体です。No.115 の内容についての感想やご意見をお聞かせください。
- ◎ 協議会ニュースは年 6 回奇数月に発行しています。この発行頻度についても、ご意見がありましたらお聞かせください。
- ◎ また、みなさんから掲載して欲しいというものがありましたら、編集部まで原稿をお寄せください。なお、紙面構成の都合等で、内容を変えない程度に原稿を加筆・修正することがあります。あらかじめご了承ください。

編 集 後 記

- 暑い暑いと言っていたのに、もう朝晩は肌寒く、年賀状が売り出される季節になりました。今回の協議会ニュース（No.115）も、今年最後のものです。
- この 1 年間、表紙のイラストを描いてくださった渡辺敦さん（名古屋支部）、シリーズで「観察会あれこれ」を執筆してくださった奥居達朗さん（西三河）、ほんとうにごくろうさまでした。
- 次号 No.116（2008 年）から中西普佐子さん（東三河支部）が表紙のイラストを担当されます。ご期待ください。（齋竹）

編集スタッフ

岩沙 雅代

近藤 記巳子

酒井勇治

横井 邦子

岡田 雅子

齋竹 善行

永田 孝

協議会ニュース編集部

〒482-0007

岩倉市大山寺元町 12-3

齋竹 善行

メ-ル：BZA03620.nifty.ne.jp

■愛知県自然観察指導員連絡協議会 事務局

〒457-0006 名古屋市南区鳥栖 2-6-17 桜本町 CH101

近藤 記巳子

Tel/Fax 052-822-7460

■Web Page：<http://naichi.net/>

■郵便振替口座：00820-9-6546（名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会）